

～まちの話題～

秋空の下

盛大に虫供養

高岡地区で開催

九月二十三日、高岡地区の天満社境内で「阿久比谷虫供養」が行われました。

虫供養は農民が田畑の虫を供養するために念仏を唱えたことが始まり



大道場で掛軸を前に百万遍の唱和

で、「阿久比谷虫供養縁起記」によると、平安時代から続くことされ、現在では町内十三地区の持ち回りで順番に行われています。

境内には大道場と八つの小屋が設けられ、その中には町指定文化財の十二幅の掛軸が飾られていました。

大道場では午後一時ごろから、百万遍（念仏）の唱和が始まり、各地区の講人約三十人の間で大数珠を回すなどして、虫供養が盛大に行われました。

大塔婆の前に敷かれた砂山を乳幼児に素足で踏ませると、かんの虫封じや、健やかに成長できるという言い伝えがあり、多くの家族連れでにぎわいました。

夕方になると、供養場的小屋などが取り壊され、来年の開催当番である矢口地区への引き渡しが行われました。



いさみの奉納



砂山を踏む子ども



矢口地区への引き継ぎ



多くの人でにぎわう会場